

家庭の教育力向上

郡PTA連合会と連携した「ふれあい訓」作り運動

「家庭教育は、各々の家庭の中で成立する」を基本的な考えとして、昨年度から、家庭のよさやあり方を親子で一緒に考える「ふれあい訓づくり」運動を提案してきました。

昨年度は、右、館岩小学校と旭田小学校の二小学校をモデル校とし、実践していただき、「家庭教育のよさの気づきにつながる」「南会津全体に広げたい」という好評価をいただきました。

今年度は、郡PTA連合会と連携して、「子育てのよさ、家庭のルール、家庭学習の定着」を視点においた「一家庭一ふれあい訓づくり」に全家庭で実践していただく

ように取り組んでいます。
全小・中学校で募集する。
→親子でつくる。
→学校の掲示や通信等で活用する。
→各校代表作品の中から「郡最優秀ふれあい訓」を選出し、郡P研究大会で表彰する。

という一連の活動を実施します。
この実践が、「手本を示す親の意識を高め、生活習慣・家庭学習を見直す」に結びつくかを、10月5日(土)のブロックセミナー(下郷ふれあいセンター)で検証をします。多くの方の参加をお待ちしています。

我が家の「ふれあい訓」
風呂上がり
親父の仕事は
耳そうじ



苦痛と思う靴そろえ
どこかで見てるよ
玄関の神様
旭田小学校ふれあい訓



南会津夢教育学校紹介
～ 南会津っ子一人一人の夢実現のために ～

下郷町立江川小学校

『豊かな感性と
思いやりの心を育む指導』

平成24年度に県教育委員会の道徳教育推進校として、研究テーマ「磨き合える集団づくりを通して、豊かな感性と思いやりの心を育むにはどうしたらよいか。」を掲げ、実践してきました。

道徳教育推進教師を中心に道徳の時間の充実を図ったほかに、保護者との連携を深めるための「道徳だより」の発行やゲストティーチャーの積極的な活用を図りました。特に、子ども向けに行ったアクアマリンふくしまによる命の教育での生きた鱈を実際にさばく授業(写真)では、命の尊さや「いただきます」の意味など、一人一人が多の事を学ぶことができました。学習指導要領解説道徳編作成協力者で埼玉県羽生市立井泉小学校長である廣瀬仁郎先生をお招きし、模範授業と講演会を実施しました。内村航平氏を取り上げた自作資料を使い、子どもたちに努力することやあきらめないこと、夢をもち続けることの大切さなどに気付かせる授業でした。更に、元福島第三小学校長、現大玉村教育委員会教育長である佐藤吉郎先生に全学級授業参観と道徳と特別活動についての講演をいただきました。



本校では親和的な集団づくりにより、確かな人間関係の構築をめざしています。今後も推進校として学んだことを活かし、道徳の時間を要として道徳教育の充実のため、取り組んでいきたいと思えます。

只見町立只見中学校

『只見中学校での
キャリア教育』

只見中学校ではキャリア教育の一環として、1学年＝只見町内の事業所訪問、2学年＝会津若松市内を中心とした3日間にわたる職業体験活動、3学年＝関西方面の修学旅行を通しての班別体験学習を行っています。今回は昨年度実施した2学年の職業体験活動を中心に紹介します。

1学年時の体験をもとに、2学年では、生徒一人一人の様々な体験への希望を叶えるために、活動場所を会津若松市及びその周辺地域とし、3日間の本格的な職業体験活動を行っています。研修の充実を図るため、猪苗代町の磐梯青少年交流の家に宿泊します。教師は、少人数で実施できるようにできるだけ多くの事業所の発掘に努めています。

実際には、20箇所に分かれ、病院関係では、乳児や高齢者との触れ合いを中心とした体験活動を行いました。その他、レストラン・スーパー・コンビニ等では、接客の仕方やあいさつ・清掃の仕方などを。幼稚園保育所関係では、実際に乳幼児と触れ合い体験を。他にも、建築・美容など地域では体験できない活動を体験してきました。



文化祭時には、各発表ブースを設置し、体験内容をまとめ、多くの保護者や地域の皆様の前で堂々と活動報告を行いました。これらの活動が今後の進路実現の一助になると考え、今後も工夫・改善をしながら実施していく計画です。

「地域とともに、子どものために」
檜枝岐村立檜枝岐中学校
校長 石本 浩一

新任校長として、この4月に檜枝岐小・中学校に赴任して早3ヶ月が過ぎようとしています。私にとって、初めての南会津地区での勤務、さらには小学校と中学校の兼務など、日々新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

檜枝岐村では、子ども一人一人が「地域の宝」として多くの方々に支えられているとともに、将来、地域を担う一員となることが期待されています。

そこで本校では、義務教育9カ年を見通した小中一貫教育の充実をめざし、小中学校の全職員がベクトルを同じくして、「チーム檜枝岐」として日々の指導に努めているところであります。

一例を挙げますと、中学校教員による小学校での授業や小学校教員による中学校での授業。小中合同の朝会や毎日の給食指導など、一見簡単にできそうですが、1単位時間の違いへの対応や教科担任制の工夫など、様々な課題を解決していかなければならないことばかりです。

今後も試行錯誤を繰り返しながら、目の前の子どもたちのために、小中一貫教育のカリキュラムづくりと指導体制の確立を図ってまいります。

そして、中学校を卒業する15歳の春までには、自立できる力とふるさとのために貢献しようとする思いをはぐくんでいきたいと考えます。

「南会津郡に赴任して」
只見町立明和小学校
教頭 戸倉 浩之

4月より只見町立明和小学校に赴任いたしました、教頭の戸倉です。教師に成り立ての頃は、南会津に赴任してみたいと思いながらも願い叶わず他地区を回り、今、やっと足を踏み入れました。予定外だったのは、ちょっとばかり年を食ってしまったのと、「教頭として」の赴任ということです。

「教頭は、校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じて…」頭ではわかっているのですが、実際に動いてみると、いろいろな文書処理に振り回されているというのが現状です。先の見通せない状態というのも怖いもので、「よしっ、一つ終わった!」と思う側から、「〇〇が未だ出ていないんですけど…」という追い込みが。

こんな迷える新任教頭の日常は、3ヶ月を過ぎた今でも、さほど変わらない現状であることが悩みの種です。

そんな私を救ってくれているのが、「明るく和やか」な明和小学校の子どもたちであり地域の方々、そして

明和小学校のスタッフです。

私の緩やかなる成長も暖かく見守ってくれている地域の方々のためにも、早く力になりたい。それが今の私の切なる願いです。それが只見町のさらに南会津郡のためになるということ念頭に置きながら日々の仕事に邁進していきたいと思っています。

新採用教員として
下郷町立下郷中学校
教諭 佐藤 幸枝

下郷中学校へ勤めるようになって1学期が終わろうとしています。季節も春から夏へと移行し、校内陸上大会や期末テストといった行事や研修などを一つ一つ終えて、だんだんと学校にも生徒にも慣れてきたところです。4月始めの通勤途中に、4年前担任した当時中学2年生の生徒とすれ違いました。車の窓を開けると、「おめでとう。先生、良かったね。」と声をかけてくれました。その子は、祖父母に育てられ、明るく賑やかで、人の嫌がることを引き受けてくれ、人の痛みが良く分かる素直な子でした。クラスにいてくれて助かった生徒の一人です。短い言葉でしたが、気持ちがこもっているのが伝わってきて、心が温かくなりました。

中学校の先生と生徒との直接の付き合いは、一生の中で考えるとそう長くはありません。しかし、小学校から積み重ねてきた過去と、中学卒業後の進路という未来を見据えながら送ることの出来る貴重な3年間であると考えます。それだけに責任も伴いますが、やりがいも大きく、だから自分は教壇に立ち子ども達と関わり続けたいのだと思います。南会津の地で、生徒と真摯に向き合い、たくさんのお会いに期待し、共に学び、成長していきたいと思っています。そして今度は、私がお返しの言葉をかけたいです。

新採用教員として
福島県立南会津高等学校
教諭 金子 真理子

4月1日、福島県立南会津高等学校に新採用教員として着任してまいりました。新しい学校と慣れない環境に不安と期待でいっぱいでしたが、「おはようございます」などの元気な挨拶と生徒の笑顔に支えられ、3ヶ月が過ぎました。

「そろそろ慣れましたか?」の声に、「まだまだです」という実感です。しかし、南会津は都会にはない魅力にあふれていると感じています。まず、圧倒されるのは豊かな自然です。そして、なによりもこの地で暮らしている人々です。都市部に暮らしていると忘れがちな、人に対する気遣いや助け合いの姿を生徒から教えられることが多くありました。また、優しさの中に、自分を律した凛とした実直さを感じます。

学校では、生徒たちが勉強に部活に、そして様々な委員会活動に、それぞれの役割をしっかりと果たしています。そのような頑張る生徒と共に成長していきたいと願い、私は教員になりました。一人一人を大切に、生徒たちがそれぞれの目標達成に向け、あせらずたゆまず頑張れるよう伴走し、支えることのできる教員になりたいと思っています。まだまだ未熟な私ですが、どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

広報「南会」の発行が100号を迎えました。
今後も「夢教育」に向けた取組を紹介して参ります。

